

令和7年度 事業計画

会員市町村のシステム保守・運用支援をはじめ、制度改正や各調査等に必要な情報提供、会議・部会等を通じて情報の共有、市町村間の交流を図りながら共同電算事業の目的である電算運用経費の削減及び会員市町村間の連携強化・情報交換を推進する。

また、自治体システム標準化・ガバメントクラウドへの移行作業を確実にを行うために会員市町村、他道府県協議会、関係機関、開発元、関連企業等々との連携をより強化し、令和7年度中の移行完了を目指す。

1 会議等

- (1) 幹事会(情報担当課長)…………… 年2回程度開催する。
- (2) 専門運営委員会・電算担当者会…………… 年3回程度開催する。
- (3) 自治体情報システム標準化検討部会…………… 必要に応じて開催する。
- (4) 自治体情報システム標準化検討業務部会…………… 必要に応じて開催する。
- (5) 次世代公会計システム部会…………… 必要に応じて開催する。
- (6) 役員会…………… 必要に応じて開催する。
- (7) 業務説明会(給与実態,年末調整,住民税申告,決算統計等々) 随時開催する。

2 機器の共同調達

- (1) 業務用パソコン等の機器の共同調達(年1回)
- (2) 第5次LGWAN機器調達(注1)
- (3) 住基ネットCS等関連機器更新(注1)

(注1): 第5次LGWAN 機器及び住基ネットCS等関連機器更新については、ガバメントクラウド接続、標準準拠システム(TRY-X4)の移行スケジュール・作業と密接な関係がある調達方法等を検討する。

3 次世代TASKクラウド公会計システムへの移行

令和元年度から令和3年度にかけて公会計に対応した現行財務会計システム(TASKクラウド)への移行が完了し、現在、50団体(県内40団体、県外10団体)で財務諸表の作成・予算編成・伝票執行等をおこなっている。

この移行期間中、凍結していた機能改修・機能強化要望等に対応した次世代TASKクラウド公会計システムへのバージョンアップを令和7年度から4ヶ年で順次移行作業を実施する。

(移行計画: R7年度→5団体、8年度→13団体、9年度→15団体、10年度→17団体)

4 自治体業務システム標準化、ガバメントクラウドへの移行

会員市町村の安全確実な標準準拠システムへの移行、ガバメントクラウド環境構築・運用を実現することを最優先課題として次の重点取組事項の事業展開を図る。

- (1) ガバメントクラウド・LGCS 接続回線
 - ・第5次LGWANルータ(設定シート作成支援)、FW等設定作業支援
- (2) ガバメントクラウド(AWS)環境構築
- (3) 標準準拠システム・ガバメントクラウド移行
 - ・TRY-X4、総合福祉システム(WEL+)、健康管理システム(e-affect)
- (4) 鹿児島独自開発システムのガバメントクラウド対応
 - ・上下水道、畜犬管理、高齢者事務支援、離島航空、奨学金、学校給食費、交通災害等々
- (5) 市町村独自システムとの標準準拠システム連携
- (6) デジタル基盤改革支援補助金申請(令和7年度分)
- (7) 標準準拠システム(TRY-X4、WEL+、e-AFFECT)利用料の決定
- (8) 標準準拠システム・ガバメントクラウド移行後の運用経費の積算
 - ・AWS利用料、運用管理・ネットワーク管理
- (9) 自治体クラウド(地域DC)運用期間の決定
- (10) 協議会システム負担金等の見直し
- (11) 住基ネットCS機器等更新